さいばいニュース

No.83

（財）神奈川県栽培漁業協会

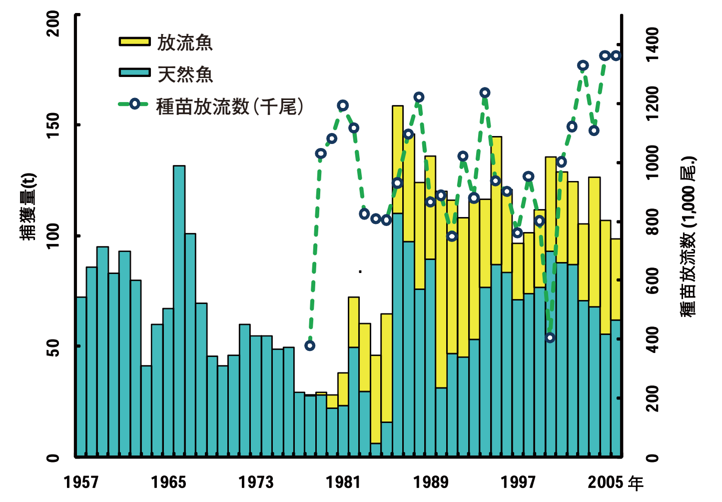
発行所　〒238-0237
神奈川県三浦市三崎町
城ヶ島養老子
☎046（882）6980
FAX046（881）2233

マダイ資源増大促進事業

種苗放流がマダイの捕獲量を支える

6.5キロの大物に育ったマダイがつりあげられたことも

マダイ種苗放流・天然、放流魚の捕獲実績



神奈川県下の漁業で漁獲されるマダイは、昭和三十年代後半から四十年代のはじめまでは百トン近い数量でした。ところがその後は、二十～三十トン台に落ち込んでしまいました。

そこで、マダイ資源を復活させようと、神奈川県は昭和五十二年からマダイ種苗の放流に着手し、六十二年からは協会が種苗生産、放流事業を引き継ぎました。そしてこれまで、年間約百万尾のマダイ稚魚を放流する資源増大促進事業に取り組んできました。

その結果、漁業で漁獲したり、遊漁者が釣り上げるマダイの合計数量は約九十トンまでになり、その約四割は放流した稚魚が大きく育ったマダイでした。標識を付けた放流魚や、かつては、捕獲されたマダイの鼻孔の違いで天然魚か放流魚かの違いが分かりました。

また、大きく育つと標識が取れてしまうことや、放流魚が成長して産卵を始めることは十分考えられ、放流魚の二代目以降は天然か放流かの区別はつきませんから、天然として区分されている中にも、放流魚の「子孫」が間違いなく存在していると思われます。

だから、現在の捕獲量の中での天然魚と放流魚の比率は、放流魚がもっと高いものとみていいでしょう。かつて、釣り人が六・五キロという放流マダイの大物を釣り上げたこともあります。このマダイはどれほどの「子孫」を残したことでしょうか。このことからも種苗放流の大切さを裏付けています。

放流したマダイ種苗がこんなに大きくなりました

それと、神奈川県は、全国で最も多くの遊漁者を受け入れています。そして、県下のマダイ捕獲量の内、漁業者が漁獲するものより遊漁者が釣り上げるマダイの方が多いことも明らかになっています。

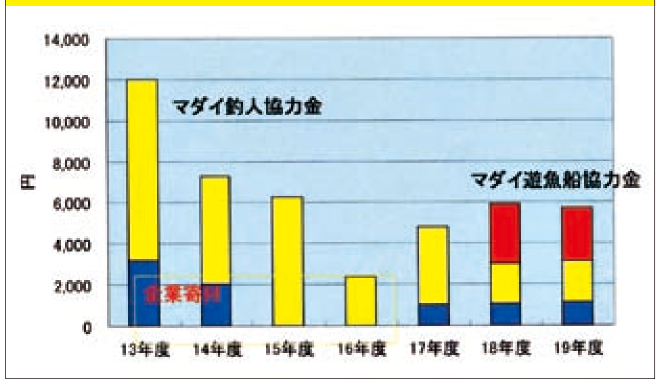
そこで、平成十三年度から「マダイ遊漁者協力金制度」がスタートしました。

平成十二年度までのマダイ種苗放流経費は、協会、補助金、漁業者や遊漁船業者が負担していましたが、マダイの放流効果及び資源の利用実態を考え、マダイ釣りを楽しむ遊漁者にも経費を負担してもらおうと、十三年度から任意の協力を呼び掛けることにしました。

遊漁船に乗りマダイ釣りを行う釣り人に、一回一人二百円を出していただくことになりました。初年度は遊漁者協力金に加え、マダイ資源増大に使ってほしいという各団体、企業、釣り同好会などからの寄付を合わせると、約千二百万円の納入実績となりました。

しかし、その後の不況で遊漁者が少なくなり協力金が減少して、

マダイ協力金の変化



そこで、遊漁者に加え遊漁船業者も一隻一カ月一万円の協力金を出していただき、目標を七百万円に設定するように見直しました。その結果、今年度は一月末現在で約三百万円の協力金が届いており、年度末には増えると思います。

神奈川県二十一年度当初予算案発表

重要資源回復推進事業などを展開

神奈川県の松沢成文知事は、二月六日、二十一年度の当初予算案を発表しました。その中で、重点施策を展開するために「重要水産資源回復推進事業費」として、千二百十万円を計上しています。これは資源悪化が著しいシャコやマコガレイ、アワビ資源の回復調査を行うとともに、県民参加型の種苗放流などを助成しようというものです。

このほか、「水産物直販支援事業」を行うため百六十八万円を計上しています。この事業は今年度から実施しているもので、景気の悪化に対応した取り組みとして位置付け、漁業者自らが、漁獲物を適正価格で販売できる新たな体制を構築するため、農産物直販所での鮮魚の直売を支援します。

技術支援・指導の実施では、「漁場整備事業」（事業費二億三千五百万円）を行います。磯根資源の増大などのための地先型増殖場の整備（三浦半島南西部）及び新たな漁場造成のための浮魚礁の設置（相模湾東部）を行います。

生産基盤の整備では、漁業生産活動の効率化と漁船の安全性確保のため、「漁港整備事業」（事業費約三十二億七千万円）を行います。沿岸漁業の振興のための藻場や底質など漁場環境の調査・監視のため「漁場環境保全推進事業」（事業費百八十五万円）などに取り組みます。

二十一年

水産団体賀詞交歓会開く

盛況だった賀詞交歓会

二十一年神奈川県水産関係団体賀詞交歓会は、一月十九日正午から横浜市で開かれました。高橋征人神奈川漁連会長は「今年は漁連、多くの漁協が創立六十で還暦を迎えます。協同の力で県下漁業の発展を目指したい」と主催者代表あいさつを行いました。

小野義博神奈川県副知事は「神奈川県は省エネの取り組み、直販事業などを支援しているので協力をお願いします」、牧島功水難救済会会長は「魚を食べてもらうためにも、米食文化の復活を目指してがんばりましょう」と来賓あいさつを行いました。

福谷潤県信漁連会長の乾杯で祝宴に入り、和やかに歓談が続き、最後に粟原梅吉県内水面漁連会長が閉会のあいさつを行いました。

潮騒

今年の「寒サバ漁は二月上旬にスタートしました。二月九日には、神奈川県の漁業指導船「江の島丸」が、丸々と太ったサバを三崎魚市場に水揚げしました▼このサバは伊豆諸島の新島の西側にある「ひょうたん瀬」という漁場で漁獲したものでした。水揚げしたサバのうち八割はマサバで、残りはゴマサバでした。しかもそのマサバの半分は、五歳魚という脂の乗りが抜群の大型魚でした▼「このぶんだと、今年は寒サバが堪能できそうですね」と、体長を測定していた神奈川県水産技術センターの岡部久さんに話しかけると、「今後、この五歳魚が漁獲の主体になることはないでしょう」とのこと▼このような「まさに寒サバ」と呼ばれる大型のマサバが先行して漁獲されることはあるが、資源は多くなく「ボーナスのようなもの」だそうです▼今後、漁場に暖水が入り込んでくると、マサバの二歳魚が漁獲の中心になるが、マサバ全体としては昨年を下回りそうです。岡部さんは、「マサバの資源回復を図るためには、親魚となる二歳魚の保護が絶対に必要です」と話していました。

二十年度種苗供給事業で配布中

アワビは県下漁協など、サザエは県外に

協会は、二十年度種苗供給事業で約三十万個のアワビの種苗を、昨年六月に小田原市漁協、日本食品分析センターに配布したのを皮切りに、七月には中央水産研究所に配布しました。この後、昨年秋から県下の漁協に配布を続け、今年三月に静岡県・伊東市漁協、みうら漁協、福浦漁協に配布する予定です。

また、養殖用のアワビ種苗の配布は、昨年五月に中央水産研究所に配布し、八月の神奈川県水産技術センターの後は、昨年秋から今年にかけて県下の漁協などや伊東市漁協稲取支所に配布を続けています。今後は、みうら漁協、初声漁協、長井町漁協漁業研究部会連合会、伊東市漁協伊東地区と宇佐美地区に配布する予定で、養殖用の配布合計個数は約六万五千個となっています。

また、みうら漁協松輪支所に、三万個の中間育成用アワビ種苗を配布する予定です。漁獲されるアワビの九割以上は、放流した稚貝が大きく育ったものだといわれており、漁業者は、稚貝を籠に入れ、餌の海藻が豊富で大型のアワビが生息している環境の良い海底にていねいに沈めるなど、アワビの資源の維持に熱心に取り組んでいます。

また、サザエ種苗の配布個数は約二十五万個で、県外に配布しました。昨年五月に宮崎県の川南町漁協に配布し、昨年秋から愛媛県、香川県、和歌山県、三重県、千葉県の水産団体などに配布を終えました。三月中に伊東市漁協、福岡県漁連に配布する予定です。

JA直販所での水産物販売が始まる

川崎、小田原、秦野で消費者が列

神奈川県が景気悪化に対応した取り組みとして始めた「水産物直販支援事業」は、JAセレサ川崎大型農産物直売所「セレサモス」、小田原・JAかながわ西湘の「ドレファーミ」、秦野の「はだのじばさんず」で始まりました。生産者直販で鮮度の良さや価格が割安なことから、評判がいいそうです。

漁業者が適正な価格で販売できる体制を構築できれば、と今年度から事業が始まりました。川崎と秦野は、神奈川県漁連が一般的な落札価格より二割ほど高く生産者から買った鮮魚を販売しており、小田原では真鶴町漁協が直販しています。

川崎の「セレサモス」では、横浜市漁協の組合員が漁獲した東京湾の鮮魚を毎週火曜日と金曜日に販売しています。また、「ドレファーミ」では、真鶴町漁協が定置網で獲れた鮮魚や組合で製造している干物などを第一、第三土曜日に、「はだのじばさんず」では、江の島片瀬漁協や平塚市漁協の定置網や一本釣り漁業で漁獲した鮮魚を、毎週木曜日に販売しています。

いずれの直販所でも、販売開始前から消費者が列を作るほどの人気です。この事業が定着すれば、漁業者が自分の「希望価格」で漁獲物が販売できるようになるのでは、と期待されています。

鮮魚の販売好評

新春神奈川県漁業者交流大会

大勢が参加した交流大会

新春神奈川県漁業者交流大会は、一月九日、横浜市神奈川区のかながわ県民センターで開催されました。百八十人を超す漁業関係者が出席しました。米山健神奈川県環境農政部水産課長は「今年は燃油価格が下がり一安心していますが、今後は漁業経営の安定に努めないと生きていけません。そのためにも、今日の活動発表は魚価の向上への努力と女性が漁業に就業した経験を話してもらえるので、参考になるでしょう」と主催者あいさつを行いました。

漁業士認定書授与式

二十年度漁業士認定書授与式で青年漁業士に横浜市漁協柴支所の宍倉繁徳、小山雄輔の二氏、指導漁業士に同漁協本牧支所の落合延光、逗子市・小坪漁協の大竹勝、鎌倉漁協の木村和俊、藤沢市・江の島片瀬漁協の浜野暁夫、茅ヶ崎市漁協の真間義嘉氏の五氏が認定されました。

ＰＲが販促に、と鈴木氏

私の生き方がヒントになれば、と岩橋さん

活動発表では、みうら漁協・松輪小釣研究会の鈴木和紀氏が「松輪サバPR事業～生産者から消費者への情報発信～」と題し、「PR事業は販売促進・消費拡大に着実につながりました」と話し、鎌倉漁協漁業研究会の岩橋桃子さんは「漁業社会に飛び込んで～全く予想もしていなかった漁師への道～」と題し、「女性、男性を問わずこれから漁業者になりたい人に、私の生き方が一つのヒントになれば」と話しました。

この後、休憩の時間には、県下各地での活動をパネル展示した場所で、担当者と意見交換を行い、最後に、神奈川県環境農政部水産課の杉浦暁裕氏が「沿海地区漁協の基盤強化」と題し話題を提供しました。「経営の安定した新たな漁協の将来像を検討する必要があります」と話しました。

まぐろ千夜一夜

続　艫のオンチャン航海記

第14話　チャゴスの珊瑚獲り　⑤

（前号までのあらすじ：好漁続きでクタクタに疲れた後のテキスイ（漁場探索）で三日ばかり操業がなくホッと一息ついたのですが、船の行き先は、船乗りが怖くてとても寄り付かないチャゴス海域でした）

二日目の朝、「皆胴の間に集合せい。今から作業や」と甲板長が怒鳴ると、一同、眼をこすりこすりし乍ら、三々五々集まって来ます。

船頭はもう胴の間に来て居て、機関場の若い衆に一語二語指示を与え、次ぎに甲板長に、何か図面のようなものを手渡し、説明しています。

甲板長はひとしきり紙片を眺めていましたが、「オイ、皆聞いてくれえや。この中で珊瑚網を作ったことのある者は居らんか」と訊ねるのです。

しかし、誰一人「知っている」という者はありません。

「ホナ、珊瑚網を見たことのある者でもええが、居らんかのう」と再び問い掛け、グルリと一同を見渡しますが、これにも答える者は居りません。

「珊瑚網、一体何のこっちゃ？縄船に何で珊瑚網みたいな怪体なもんが要るんや」と一様に思っていることが、どの顔にも出ているのです。

「実はのう、チャゴスで珊瑚網やって、大儲けしよう、と船頭が言うとるんじゃ。そんで、船で網を作って、珊瑚を仰山獲ってな、皆大金持ちという寸法や」との甲板長の説明に、一同狐につままれたようにポカンとしているのです。

―こりゃ、船頭はいよいよおかしい。エライことになってしもうたぞ―口にこそ出さないが、皆がそう考えているのは明らかです。

それまで黙って、ニコニコ顔で皆の反応を見ていた船頭ですが、やおら儂に語り掛けたんです。

「まぁ、大儲けは冗談だがな。いうなれば気分転換と思って貰えばいいんだ。年がら年中マグロの尻を追っかけてばかりの生活も、それはそれで結構だが、たまには、滅多にやれないこと、他人が思い付きもしないことをするのも面白いのではないかなぁ。話の種にこんなこともやった、あんなこともやった―、そんなことあってもいいんじゃないかと思うがどうだ。遊びだ、遊びだよ」そう言って呵々大笑するんですよ。

いやホンマに変わった人ですなぁ。こんなん、儂も何人もの船頭に仕えてきましたが、初めてですわ。

そうこうしているうちに、直径七～八センチ、長さ十メートルほどの鉄パイプを、機械場の若い衆が運んできました。両端に頑丈なシャックルが付いていて、パイプの所々には、網を縛り付けるピースも溶接されています。

これに古縄を垂らすように取り付け、パイプの両端を二本のワイヤーで支え、これもシャックルで結合したものを、船の舷側から曳くのだそうです。鉄パイプが珊瑚に当たると、珊瑚礁が崩れ、その落ちる片を、ブラ下げた網に引っ掛ける仕掛けらしい。

初めは、半信半疑だった乗り組の連中も、だんだん興味を持ち始め、皆で手分けしながら作業を始めますと、二～三時間で、図面とよく似た漁具―、珊瑚網が完成したのです。

作業が終わると、他にすることが何もないため、皆であちこちにトグロを巻いて、珊瑚話に花が咲きました。

「これでホンマに大儲けしたら、俺ぁ船止めて、何かええ商売始めるなぁ」と誰かが言うと、他の一人は

「俺はよう、でけえ家建ててよう、そんで毎晩ドンチャン騒ぎやらかすべえよ…」

皆口々に好き勝手な能書きを吹いて、久し振りに楽しい時を過ごしたものでした。

失敗した珊瑚獲り

翌日、チャゴスのリーフ海域に到着しました。船速を最微速に落とし、魚探を見乍ら、ソロリソロリと近付いて行きます。

誰もが息を呑み緊張が船中を包みます。船頭は実に悠然たるもので、穏やかな表情のまま、前方を見詰めています。

（つづく）

20年度第2回相模湾定置網漁海況予測説明会開く

マアジは1歳魚主体で1,100トンと好漁予想

相模湾試験場は、二月十二日、二十年度第二回相模湾定置網漁海況予測説明会を開きました。二〇〇八年の年間のジンダの漁獲量が極めて高水準だったことから、今年上半期のマアジの漁獲量は、千百トンの好漁になる、と同試験場の片山俊之技師は予測しています。

マアジは好漁、と説明会

説明会は、三十五人の定置網漁業関係者が出席して開かれました。冒頭、同試験場の高田啓一郎場長は、「昨年はサバが大漁になったなどの報告が行われますが、皆さんが感じたことや意見を出してもらい、さらに精度の高い情報を出すように努めます」とあいさつしました。

片山技師は、二十年下半期の漁海況経過と二十一年上半期の漁海況見通しを説明しました。昨年の黒潮の動向などを紹介した後、昨年下半期の相模湾の定置網による漁獲は、サバを主体に全般に好調であった、と話しました。

そして今年上半期の漁獲量について、ブリは前年同期を下回り、ワラサは上回り、マアジは、正の相関がみられる二〇〇八年のジンダの漁獲量が極めて多かったことから、同年の年間漁獲量を大幅に上回る千百トンの漁獲が見込まれる、と説明しました。

この後、神奈川県水産技術センターの清水顕太郎主任研究員が、関東・東海海況速報は精度が高いと説明しました。また、同試験場の石戸谷博範専門研究員は、急潮が発生する事例を紹介し、付着物の除去、網の撤去などの対応が必要である、と提言しました。

神奈川県立海洋科学高校

ハワイ州立大学と海洋教育協定結ぶ

神奈川県立海洋科学高校（旧三崎水産高校、新井由紀男校長）は、昨年十二月、ハワイ州立大学と海洋教育協定を結びました。海洋教育を学ぶ生徒の視野を世界に広げ、将来の夢を育むきっかけにしたいと、新井校長先生がハワイに出かけ、同大学のフランク・サンソーネ海洋学部長と協定書にサインしました。

早速、講演を聴く実習生たち

新井先生は、「当校の生徒は、同大学で海洋研究についての特別講演を受けることができることになりました」と話していますが、ホノルルに寄港していた実習船「湘南丸」に乗船していた水産工学科三年生三十二名と専攻科漁業生産科一年生七名は、早速、同大学で講義を受けました。

締結した協定の内容は、ハワイ州立大学海洋学部は、同高校に海洋に関する特別講演を提供し、受講を希望する生徒の受け入れを行い、さらに、同学部は教育に関する情報交換、双方が合意した事項について教育交流を行おうというものです。

湘南丸は、年二回の洋上実習のときハワイに寄港しますが、生徒たちは島内を見て回るだけではなく、同大学を訪問するようになり、交流が始まりました。同大学は、海洋研究では全米でトップレベルの学校です。それだけに、今回の協定書の締結は、海を知り、海を守り、海を拓く、を校訓とする同高校の教育的な発展に大きく寄与するものと期待されています。

新井先生は、「今後、洋上実習に参加していない生徒などが同大学を訪問したり、同大学の関係者が日本に来た機会に、当校で講演してもらうことも検討します」と話しています。

全国豊かな海づくり推進協会

水産資源回復、海の森づくりなどの事業を展開

昨年七月に新事務所に移転した社団法人全国豊かな海づくり推進協会は、これまで、栽培漁業による資源回復やその成果の実証、全国豊かな海づくり大会の支援など、栽培漁業の推進になくてはならない事業を展開しています。

主な事業は、関係都道府県による広域的な連携による取り組みを通じ、効率的な種苗放流体制を構築し、資源回復を目指す「栽培漁業資源回復等対策事業」、水産総合研究センターが開発した卵や種苗を用いて、各地の特徴を活かした調査・試験を実施することで、種苗生産・中間育成などの技術を実証する「栽培漁業の実証」などがあります。

複数県にまたがる対象種の栽培漁業を展開するための「種苗等交換システムの構築」、藻場や干潟の再生、漁港の持つ増殖機能を十分に発揮させるための施設整備を検討する「生育環境の保全及び改善に関する調査」事業も展開しています。

さらに漁協などが行う中間育成試験、放流効果調査、養殖技術導入試験、藻場造成試験、都市と漁村の交流の実践などの豊かな海づくりに関する活動や全国豊かな海づくり大会も支援しています。

▽協会所在地＝東京都中央区日本橋小伝馬町九－六、小伝馬町松村ビル六階、電話番号０３・五六五一－三五〇一。

20年11月－21年1月 寄付・募金実績

昨年十一月から今年一月までの間の協会への寄付・募金は、みうら漁協松輪支所の「浜鈴丸」さんが、十一月に八万千五百八十九円を募金してくれたのをはじめ繰り返し協力金を出していただいている藤田一雄さんは、十一月と十二月に各二千円を送ってくれました。

毎年寄付して下さる宮本康弘さんも十二月に三万円、年二回、釣りイベントを行い、参加者に協力を呼び掛けてくれているリビエラリゾート・シーボニアマリーナからは、十二月、「ハギマスター」で参加者に募金をお願いしてくれて集めた七万五千円をいただきました。

茅ヶ崎市漁協の「おかだ丸」さんからは、十二月に五千七百五十一円の募金があり、平塚市漁協の「庄三郎丸」さんは、今年一月に一万二千円を寄付してくれました。

さいばい漁業って何 ②

㈶神奈川県栽培漁業協会
専務理事　今井利為

その一つは、漁獲過剰の問題です。漁業者には「獲ったか見たか」との言葉があります。実際に漁獲して自分の目で見て、漁獲物を手中に収めないと安心できないとの気持ちが漁師にはあります。したがって、資源管理などの管理目標を設定しても、狩猟本能を抑えることはなかなか難しく、目の前に魚が現れれば、獲ってしまわないと気が収まらないことが一般的です。また、日々の暮らしを営んでいくためには現金収入がどうしても必要です。代替する漁業があれば良いのですが、なかなか見つからないのが現状です。

しかし、資源が無くなっては、元も子もありません。資源を回復する手段としては、有効な禁漁区、禁漁期などの資源管理策を採用することが必要です。

また、網目の規制や制限体長を設け、卵を産む前の魚を保護することも必要です。

さらに、海の中で魚の数が少なくなってしまった場合、人工的に種苗を生産し、放流する栽培漁業が有効です。

資源が回復しないもう一つの原因は、水産生物の発育段階、特に、幼稚仔期における環境の悪化が考えられます。特に、沿岸浅海域の埋め立てによって、幼稚仔が生育する干潟や藻場などの浅海が消失したことも漁獲量減少の大きな要因となっています。さらに、沿岸の陸地からの生活廃水や工場廃水による汚濁負荷によっても幼稚仔の生き残りに影響しています。

二十世紀後半の沿岸域開発は高度経済成長をもたらしました。その結果、豊かな水産資源を失い、再度、生活の豊かさとは何かを問いかけられています。二十一世紀は、失った沿岸域の環境を取り戻し、自然の生産を発揮させていくことが必要です。

これらのことが、沿岸の資源を回復するための前提条件となります。

（三）栽培漁業とは何

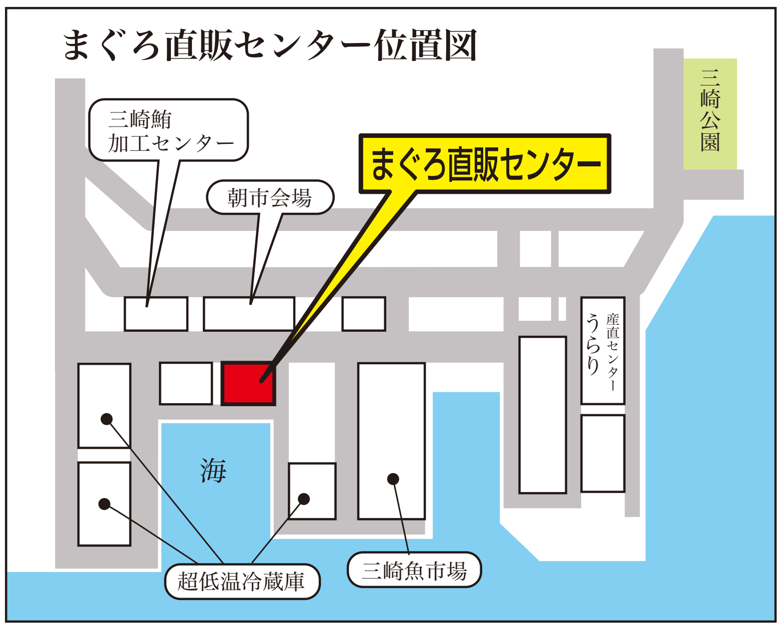
それでは、本題の「栽培漁業について」話を進めましょう。

今さら「栽培漁業って何」って言われても、困る人が多いかと思います。小学校五年生の社会科では栽培漁業について学習する機会があります。どこかで聞いたことはあるかも知れませんが、もう一度、復習してみましょう。

漁業は、海や川、湖から魚や貝、海藻の生物資源を採って生活する産業を言います。

資源には、鉱物資源のような一度採ったら次第に無くなっていくものと、生物資源のように親となる資源を残しておけばある程度採っても時代を超えて採り続けることができる漁業のようなものがあります。

水産資源は一対の雌雄から、数千～億の単位で子供が誕生します。しかし、誕生した子供が全部残るわけではありません。生まれて直の子供は泳ぐ力も弱く、小さいので、他の生物の餌として食べられたり、子供のときに食べる餌が無いところへ運ばれたりして死んでいきます。（つづく）



【アクセス】
横浜横須賀道路を終点の佐原で出て信号を右に。海岸の国道134号線を右折すると約20分で三崎港に突きあたり、ロータリーを右に進むと、三崎魚市場が見え、その横が「まぐろ直販センター」（三崎朝市会場前）です。
《問い合わせ》　まぐろ直販センター　TEL 046−881−0872

朝市・直販所めぐり シリーズ⑯
JF神奈川漁連鮪加工場直営店
まぐろ直販センター

マグロといえば三崎港ですが、その三崎新港で刺身用のマグロを加工しているのが、JF神奈川漁連です。その工場に併設されているのが、直営店の「まぐろ直販センター」です。

天然ものの刺身用メバチマグロの赤身はもちろん中トロ、本マグロの中トロなどを販売していますが、年末などは本マグロの大トロのブロックやサクも取り揃えており、マグロ加工場の直営店だけに、「安心して美味しいマグロが買える」という常連客も多くなっているそうです。

安心してマグロが買える、と評判の「まぐろ直販センター」

刺身以外でも「マグロの漬け」「まぐろのほお肉のフライ」「カジキの竜田揚げ」「シロカワカジキの味噌・粕漬」、大好評のビンナガマグロの「缶詰」など、マグロ関係の商品が豊富に揃っています。また、魚を使ったギョーザ「お魚くん」などや海藻類の各種商品も販売しています。

神奈川県漁業士会が創設二十周年
総会後に記念式典を挙行

神奈川県漁業士会は、一月二十七日、箱根パーク吉野の会議室で、二十一年度通常総会の後、創設二十周年記念式典を挙行しました。

午後三時から総会で、鈴木喜一会長があいさつした後、米山健神奈川県水産課長、長谷川保神奈川県水産技術センター所長、高橋征人神奈川県漁連会長が祝辞を述べました。そして、議長を選出後、二十年度事業報告、二十一年度事業計画などを審議、二十一年度には研修会の開催、他県漁業士会との交流などの事業を行うことを決めました。

総会開く

午後六時から二十周年祝賀会に入り、三名の歴代会長が一言あいさつを行った後、福谷潤神奈川県信漁連会長が祝辞を述べ、祝宴に入りました。

なお、会場で、同漁業士会の二〇周年記念事業実行委員会が編集したKNG神奈川県漁業士会「創設二十周年記念誌」が配布されました。

２０周年記念誌

同誌には、鈴木会長のあいさつ、昭和六十一年からの同会の活動やあゆみが詳しく紹介されています。中には、カラー写真入りで、冷海水製造施設を見学したことや愛知県にトラフグ漁業の視察に行ったこと、第二五回全国豊かな海づくり大会で、アジの開き方教室を開催したことなどが掲載されています。

さらに、一期から十期までの役員名簿、前会長まで三名の歴代会長や会員の写真が顔写真入りで紹介されているほか、六十五歳で退会した人、亡くなられた会員の顔写真が掲載されているなど、同会の人脈を目で見ることができる小冊子です。

小山紀雄さんの黄綬褒章受章を祝う会
多くの関係者がお祝いに駆けつける

多くの人が出席した受章祝賀会

横浜市漁協の小山紀雄組合長が昨年秋に褒章受章したことをともに祝おうと、二月十七日、横浜市西区みなとみらいのヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルで「小山紀雄さんの黄綬褒章受章を祝う会」が開催されました。

同漁協、漁業信用基金協会、漁連、信漁連が主催し、関係団体の協賛を得てお祝いと今後の活躍をお願いしようと開催したもので、神奈川県、漁業団体、漁協幹部など百六十人がお祝いに駆けつけました。

小山組合長は、永年にわたり漁業に携わるとともに、平成十五年には横浜市漁協の組合長に選任され、以後、神奈川海区漁業調整委員会委員、県水産審議会委員、県漁業信用基金協会理事長、県漁連副会長に就任、現在に至っています。

このように県下水産業界の要職を歴任し、神奈川県下の水産業界の振興発展に貢献た功績が認められ、今回の黄綬褒章受章となりました。

国際フィッシングショー2009
ニューモデルの釣具も大人気

日本釣用品工業会が主催した「国際フィッシングショー２００９」は、二月十三日から十五日まで、みなとみらい・パシフィコ横浜で開催されました。シマノ、ヤマリアなどの各社が、ニューモデル、人気のある釣具などを展示し、来場者に説明していました。

来場者で溢れた会場

また、水産庁、水産総合研究センター、全国豊かな海づくり推進協会のブースには、神奈川県水産技術センターのアマモ場造成などや当協会の稚魚放流継続のためのポスターが展示され、また、同ブースでは「おさかなクイズ」が行われ、長い列ができました。

日本釣振興会が種苗放流のために来場者に寄付をお願いしたブースでは、募金をする人が後を絶ちませんでした。東京湾遊漁船業協同組合のブースでは、「海に生きる海を守る」パンフレットの配布などを行いました。また、グルメコーナーでは、神奈川県漁連の「マグロ漬け丼」、神奈川県中型いか釣漁業協会の「いか焼き」などが人気でした。

編集後記

不況のため、職を失う人がたくさんいる、との報道が多いようです。他人の不幸につけ込んでいる、といわれるかも知れませんが、こんな時こそ、後継者不足、漁業者の高齢化に悩まされている漁業界にとり、人手を確保する絶好のチャンスだと思います。

漁業の現場で働くのは厳しいものがありますが、収入さえよければ就業する人がいるだろうと、思います。ただ、魚が獲れることが前提であることは間違いありません。そのためにも資源を維持、増大させる栽培漁業は不可欠ではないでしょうか。